

新刊 興有物品

（一）...三...五...每枚...（二）...每片一回二十日發行

明治四十年一月二十日發行

志 教 育 新 法

第貳百參拾七號

208-138

第二百三十七號目次

◎口繪 市立名古屋商業學校長市郎芳樹君	一頁
◎頌德辭	一頁
◎努力的教育	一頁
◎教授訓練	一六頁
△國定教科書に於ける暗算の取扱方	中根政次郎
△綴方教授の實際	小林佐源次
△小學校に於ける考按語	町田利玄
△新らしき地理	宮野勇太郎
◎この一日	七田子稿：二七頁
◎校務世務	三一頁
△某學校の教育法	
△展覽會について	
◎教育瑣談	四三頁
△研究と課題	
△漢字表の製作	
△雜感集の一節	
△雜感雜錄	
△日需品相場表	
△校長の爲す成績考査	
△新年雜感	
◎新刊書籍雜誌紹介	四八頁
◎雜錄	五〇頁
△丹羽郡通信	
△額田郡特行者獎勵會規則	
△東加茂郡通信	
◎叙任辭令	五三頁
◎廣告	
◎理科細目	

◎特別廣告

退任の辭

天 爵 堂

頭を養つたらば次に實行にうつれといふ人あり、自分にもやつて見てもよいと考へて居たので、遂に小學校に再び舞ひもぐることとなり。願ひれば最初に豫期したる三年間は夢の間に過ぎて、豫期の事業は未だ半にだも達せず。慚愧限りなし。將來愈々益々理論と實際との上に大なる研究を積み重ねて諸君に相見ゆるの時期あるべきを冀ふ。身不肖にして榮職を汚すこと三歳幸にして大なる失態なかりしは偏に諸賢の扶助誘掖の篤に出づ。感謝何ぞ堪へん。任を退くに當つて一言諸賢の厚意に謝し尙ほ將來交誼の益々深からんことを冀ふになん。

(明治二十六年第三種郵便物認可) 每月一回二十日發行

明治四十年二月二十日發行

老古友會誌

第貳百參拾八號

第二百三十八號目次

◎論叢

- △今後の國字
- △努力的教育
- △足の人となれ

◎教授訓練

- △初歩の英語並に英習字教授法に就て
- △綴り方教授の實際(承前)
- △小學校に於ける老按(畫續)
- △新らしき地理
- △裁ち縫ひ

◎世務校務

- △女子の名に就て
- △格言十則
- △教育家寸鐵訓

◎世論一斑

◎新刊書籍雜誌紹介

- △雜報

▲三教育大家縣會より表彰せらるる
▲二十五年勤續
▲せる長教師

池山俊一郎君表彰式 ▲鈴木宇真安君勤續二十五年
頌徳式 ▲伊藤爲則君三十四年勤續功績表彰式 ▲初
等教育家大野直次郎氏 ▲西加茂郡ノ老先生 ▲本縣
農業教育の刷新 ▲八名郡日吉尋常高等小學校近況
▲第六回全國聯合教育會議題 ▲中等教育教授法研
究事項其他數件

◎叙任碎令

- ▲教育者正免

五 四 頁

一 頁

一 六 頁

上田萬年
堀田鑑次郎
竹 香

近藤光次
小林佐源治
府 園 生
宮野秋水
内木玉枝

二 八 頁

三 二 頁

三 三 頁

三 七 頁

辱知諸君に

男兒一諾重千金。利害何堪動此心。官海即今
風浪急。前途難測幾浮沈。この一首を賦して
余が南設樂郡を立ち出でしは、茲十年の前な
りしが、果然、官海には風浪多く、世途亦多難
にして、西に漂ひ東に流れ、終に實業界に入
り傍ら操觚の業に従ひ、雅俗の両境に跨り、
社會の表裏を研究しつゝある間に、偶木會の
籠招を蒙り、再び郷里へ還るの榮を得たるは
欣喜の至りなりとはいへ、而も志業未だ成ら
ず、錦衣身に飾らずして、徒らに襤褸を纏ふ
て夜半「ヨッリ」に逆戻りしたるは、辱知諸君
に對しても聊か赧顔の至りなれば、一々榮趨
致すべきは當然の事ながら。先づ當分事務所
内の一室に籠城して只誌上にのみ御挨拶致す
べければ不敬の罪は萬層怒せられよ。

明治四十年二月

田部非翎太郎

(明治二十六年 第三種郵便物認可) 毎月一回二十日發行

明治四十年三月二十日發行

先哲叢書新誌

第貳百參拾九號

第二百三十九號目次

◎論叢	一頁
△羅馬字採用につき	尾村桃陰	
△學藝會	瀧 遇 會	
△教育者の威儀	竹 香	
◎教授訓練	八頁
△複式用修身教授細目	木邨仁止	
△綴り方教授の實際(承前)	小林佐源治	
△少學校に於る考按語(續)	庸 園 生	
△尋常小學校の教科書中に出てる博物資料	太田孤舟	
◎世務校務	三十頁
○△紋章の話	川部非竹香	
△家庭演習會	伊藤松葩	
△經驗の結果	石川榮八	
◎世論一斑	三十九頁
◎寄贈雜誌	四十二頁
◎雜報	四十三頁
△本會代議員會記事△ラット博士の講演會と招待會△ 小學校教員の行賞 丹羽郡通信並他數件		
◎叙任辭令	六十一頁
◎廣 告	

▲豫 告 ▼

記者は今回遍く本縣公私立中等學校長若くは教育諸氏を歴訪して、其の教育上に對する高見を叩き、之れを誌上に紹介して以て會員諸君の清讀を煩はさんと期せり、今己に左の諸氏は、記者の請を允し其の濫著を披瀝せられたれば、次號には

◎普通教育の將來に付注意

第一師範學校長 三浦渡世平

◎農業教育の將來に付注意

農林學校長 山崎延吉

◎女子教育に關する意見

名古屋市立高等女學校長 佐藤雲韶

の論説を掲ぐべく、其他會員諸氏より寄稿にかゝる金玉の文章山の如くなれば指を屈して次號の發行を待たれよ

主任記者

(明治二十六年第三種郵便物認可) 毎月一回二十日發行

明治四十年四月二十日發行

志 友 友 友 友 友

第貳百四拾號

第二百四十號目次

◎論 叢……………一頁

△普通教育の將來につき 愛知縣第一師範學校長 三浦渡世平

△木縣農業教育につき 縣立農林學校長 山崎延吉

△木縣工業教育につき 縣立工業學校長 柴田才一郎

△女子教育につき 名古屋市立高等女學校長 佐藤雲韶

△花吹雪……………竹 香

◎教授及訓練……………十六頁

△手工科の理論及び實際 愛知縣第二師範學校訓導 木村重正

△小學校に於ける考按書(續) 藤學 藤園生

◎漫 錄……………二十二頁

△味噌と醬油の働 醫學博士 三宅 秀

△學校に於ける火災豫防及生徒避難の方法 寶飯郡 宮野勇太郎

△新らしき地理(二) 竹 香

△通學生徒の歌

△修身百人一首

△お笑ひくさ……………竹 香

◎世論一斑……………三十八頁

◎寄贈雜誌……………四十一頁

◎雜報數件……………四十二頁

◎叙任辭令……………四十九頁

◎總會準備のくさく

▼來る五月四五兩日の總會は戰後第一回なれば、新に發展したる各地教育の情状をも見聞し。又其の序をもて三重縣に開催せらるゝ教育大會にも臨まらるゝ方々ありて來會者非常に多からんとの豫想により

▼役員諸君は一大奮發し出來得る限りの準備をして來會諸君に満足せしめんを、過る八日には第一回の幹事會を同十六日には第二回の幹事會を同十九日には評議員會を開き種々協議せられしが、大要左の如し

▼講演者は留岡君は己に承諾せられありて、更に澤柳次官自仁普通學務局長に來臨を乞ふべく目下紹介中

▼會員短時間演説は豫め各都市に正補一員づゝを選出せしめ順次登壇することとし

▼懇親會は本會より其費用若干を補足し階行社に於て盛に立食の宴を開くべし

▼餘興は有名の講談師に教育的講談をなすことめ又紀念繪はかきの贈呈大福引の舉行等もあるべし

▼又閉會後離宮拜覽熱田築港商工共進會等の數個處を縦覽せらるべき様目下交渉中のよし

(明治二十六年三月二十一日第三種郵便物認可) 每月一回二十日發行

明治四十年五月二十日發行

老古友友新法

第貳百四拾壹號

第二百四十一號目次

●愛知教育會大會記事

●論 叢……………十一頁

工業教育の價值 名古屋高等工業士井助三郎
 學校長工學士

女子之工藝教育に就き 縣立工業學校教諭福井信之進
 田部非竹香

●教授訓練……………二十五頁

小學校に於ける考按畫(續) 楯園生
 手工科の理論及實際 愛知縣第二師範 木邨重正
 學校附屬訓導 西加茂 鈴木大八

●漫 録……………三十四頁

色盲の話 衛生小僧
 國字 尾野丈太郎
 我が校内の植物 名古屋高七 野田信吉
 漫言 碧海 太田孤舟
 教室裝飾法 ナミ生
 教室に如何に裝飾すべきか 尼北 馬淵溪谷
 大隈伯の講演

●雜 報……………四十八頁

戰後教育の方針 法學博士 高田早苗

▲上田一郡功勞表彰會 ▲佐藤金次郎君頌德式 ▲坂本

七郡功勞表彰式 ▲神谷福之助君頌德式 ▲東茂郡第

一通信 ▲同郡第二通信 ▲額田郡通信 ▲知立通信 ▲八名

郡通信 ▲縣立一中運動會 ▲名古屋高等工業學校第一回

陸上運動會

●叙任辭令……………六十三頁

此頃某教育家は曰く、「小學教員は恰も燈臺下の捨石の如し」と。然り。其の功勞の常に水平線下に埋没せられて、俗眼に認知せられざること、實に某氏の言の如し。而も之れありてこそ、屹然として岸頭に聳立し、如何なる激浪怒濤にも、動かす、揺かす、遠く燦爛たる光輝を放ちて、人生の航路を指示し、以て彼の航海者をして、望洋迷津の嘆なく容易に彼岸に達せしむるもの、豈此の捨石の餘澤にあらずや。苟も世の具眼者、決して其の功勞を没却せざる也。教育者たるもの、しかく悲觀せらるゝなければ幸也。(竹香)

（明治二十六年第三種郵便物認可）每月一回二十日發行

明治四十年六月二十日發行

志士友誼會新誌

第貳百四拾貳號

第二百四十二號目次

●論 叢……………一頁

▲義務教育年限延長に就て……………枝 徳二

▲大なる生活……………内務省参事官 井上友一

▲女子商業學校設立に就て……………名古屋市長 市 邨 芳樹

▲禁煙に就て……………私立名古屋中學校長 大島多計比古

▲日本服の改良すべき点……………私立名古屋裁縫女學校長 楳山正三

●教授訓練……………三十三頁

▲手工科の理論又實際……………本縣第二師範學校訓導 木 邨 重 正

▲講習土産……………尾 西 三 郎

●衛生……………三十八頁

▲海浴瑣談……………衛生小僧 伊藤瑞良

▲トラホームに就て……………四十五頁

●漫 録……………四十五頁

▲経駿の結果……………石川榮八

▲新らしき地理……………宮野秋水

▲泣く兒の取扱ひ方に就て……………太田江舟

▲偶感雜記……………禾 恵 生

●寄贈雜誌……………五十一頁

●教育日誌……………五十一頁

●雜 報……………五十三頁

●雜報其他數件……………五十三頁

廣 告

本年夏期講習會左の通開設す志望者は速に郡市教育會に申込まるべし

甲 之 部

一學 科……………理科、外國地理

一會 期……………八月二日より二十五日間

一會 場……………名古屋市(縣立高等女學校内)

一會員資格……………小學校並に尋常科准教員

乙 之 部

一學 科……………農業科實習

一會 期……………八月二日より一週間

一會 場……………安城(農林學校内)

一會員資格……………従前の例に依る

六月 愛知教育會

(明治二十六年第三種郵便物認可) 每月一回二十日發行

明治四十年七月二十日發行

志友友友友友友

第貳百四拾參號

第二百四十三號目次

● 論 義……………一頁

▲軍隊と地方との接近……………第三師團長 大久保春野
陸軍中將

▲小學校に於ける体操遊戲……………枝 徳 二

● 教授訓練……………一六頁

▲講習土産……………海西 か ぼ る

▲綴り方教授の實際……………第二師範 小林佐源治

▲修身地理歴史教授要旨……………

● 漫 録……………三〇頁

▲教師論……………海西 石 黒 生

▲操行考査私見……………碧海 尾村丈太郎

▲偶感雜記……………南設 禾 恵 生

▲講習餘滴……………海西 梶 村 生

▲郡視學雜感……………

▲縁陰清話……………

▲教育日記……………

● 寄贈雜誌……………四六頁

● 雜 報……………四七頁

● 其他數件……………

● 講習用書

第一師範學校内にて開會する准教員講習用書左の如し

初等博物教科書……………開成館發行

初等理化教科書……………全

講習外國小地理……………田沼書店發行

訂外國新地理……………三省堂發行

● 臨時講演會

東京帝國大學教授福來文學博士を招請し來八月二日午後一時より名古屋市縣立高等女學校講堂に於て心理學講演會を開く

(明治二十六年第三種郵便物認可) 每月一回二十日發行

明治四十年八月二十日發行

志士教育雜誌

第貳百四拾四號

(明治二十六年第三種郵便物認可) 每月一回二十日發行

明治四十年九月二十日發行

志士教育雜誌

第貳百四拾五號

第四百二十五號目次

● 稿 感	枝 德 二	一 頁
● 金風玉露	二	頁
● 論 叢	三	頁
○ 女子教育に就き	田部井竹香	
▲ 修身科の活材料		
● 講 話	八	頁
▲ 精神の區域	文學博士 福來友吉	
● 教授訓練	二十二	頁
▲ 義務教育延長と算術教科書の取扱	中根政次郎	
● 郷土史料	二十五	頁
▲ 窯業史		
● 文 苑	二十八	頁
● 漫 錄	二十九	頁
▲ 義務教育延長後の吾人小學教師	第二師範訓導 冊羽元三郎	
▲ 涼臺にて(男女教員の服裝について)	丁未閣主人	
▲ 講習餘滴	海西 梶 村 生	
○ 鳥獸の言語	竹 香	
▲ 力士の紀念碑	同	
● 寄贈雜誌	四十一	頁
● 教育日誌	四十二	頁
● 雜 報	四十三	頁
● 其他數件		

投 稿 歡 迎

理想にまれ、實驗にまれ、
 文藝にまれ、學術にまれ、
 或は奇聞、或は彙報、或
 は笑話、或は諷刺、其他、
 何といひ、蚊といひ、荷
 も、我か教育上裨益あり
 と思はるゝものは、何卒
 此際、續々御投稿ありて、
 以て本誌をして、一層の
 光彩を放たしめよ (記者)

投 稿 歡 迎

投 稿 歡 迎

投 稿 歡 迎

（明治二十六年三月三十一日）第三種郵便物認可）每月一回二十頁發行

明治四十年十月二十日發行

老古友音新志

第貳百四拾六號

第四百二十六號目次

● 論叢	五頁
● 小學校に於ける運動會學藝會調査	一頁
▲ 西遊の歸途	私立東京高等女學校長 棚橋純子
● 教授訓練	一二頁
▲ 當校二部教授の梗概	小林佐源治
▲ 義務教育延長と算術教科書の取扱	中根政次郎
▲ 手工科の理論及び實際	本縣第二師範學校附屬指導 木部重正
▲ 作法教授(和島龜三郎氏口演)	尾西のほ
▲ 教授訓練百話	實飯瀧廻家
● 郷土史料	二六頁
▲ 瀬戸窯業沿革	竹香
▲ 熱田灣築港史	同
● 漫録	三四頁
▲ 政家年鑑を讀みて	ケイライ生
▲ 燈火可親	丁未閣主人
▲ 國民教育觀	葵葉生
▲ 教育雜感	鈴木壽一
● 寄贈雜誌	四四頁
● 教育日誌	四五頁
● 雜報	四六頁
● 叙任辭令	六二頁
● 廣告

東西南北

▲ 廣島 縣にては女教員の動作を敏活ならしめ男教員と同じく休操遊戯の教授せしめん爲め袴袖及袴を着用すべく訓示した鹿兒島縣も亦略同じ

▲ 茨城 縣にては中學卒業生の用途を開く爲め卒業生の材幹ある者一名を抜擢して官吏に任用する事とし其の成績を見て漸次用途を開くこの事

▲ 大坂 府にては師範學校令改正の結果全員私費生の師範學校を新設し既設の男女兩師範學校には更に二部をも増設して教員の缺乏を補ふよし

▲ 女子 高等師範にては文科理科技藝科生徒各二十五名を募集す薦舉に應せんとするものは履歷書身休検査書戸籍抄本を添へ縣廳へ願出づべし

▲ 高等 女學校若くは女子師範學校の女教員近來漸次缺乏を告ぐ其原因は從來の獨身生活の不都合を覺り結婚するもの漸多きを加へたるなり

▲ 鐵道 廳及び郵便局にて使用する女子の成績何れも其好にて將來有望なれば之れを募集する所漸く多く現に名古屋驛にては數名募集中のよし

▲ 米國 政府は過去數年間に千餘人の米國教師を麻尼刺に遣し米國的教育を施したるに其成績頗る其好にして同國民二十万人は米國化したりと

▲ 韓國 學務次官侯君曰く韓國啓蒙の要は普通教育を普及せしむるにあり而て其着手として師範學校を設立し善長なる小學教師を造るにあり

▲ 文部 省にては今回壯丁教育成績調査なるものを編成し之れを各府縣道廳等へ配付し小學教育の内容を改善し補習教育の實を舉ぐる事を期せり

(明治二十六年 第三種郵便物認可) 每月一回二十日發行

明治四十年十一月二十日發行

女子教育雜誌

第貳百四拾七號

第二百四十七號目次

◎ 丈山壁書	一	頁
◎ 片言隻語	五	頁
◎ 論	七	頁
▲ 教育の成績調査につき	田部非竹香	
▲ 再嫁に就て	小林清作	
◎ 教授訓練	七	頁
▲ 國定珠算教科替の取扱法	中根政次郎	
▲ 訓練について	太田新之助	
▲ 當校二部教授の梗概 (承前)	小林佐源治	
▲ 尋常小學讀本にあらはれたる教語	第二師範教諭 栗山 謙	
▲ 東加茂郡理科教授細目	二六	頁
◎ 郷土史料	竹	香
▲ 窯業史瀬戸窯業沿革 (承前)	同	三五
▲ 熱田灣築港誌 (承前)	同	三五
◎ 漫 録	三五	頁
▲ 教授訓練百話 (承前)	尾西 瀧 題 家	
▲ 家庭の訪問	尾西 宮 田 生	
▲ 我校に於て行ひたる父兄懇話會	一 訓 導	
▲ 余が研第の結果になれる唱歌教授法	梶母高等小學校内	
▲ 文化と習慣風俗	四春 鈴木壽三吉	
▲ 寄贈雜誌	知多 稻 田 生	
▲ 教育日誌	落葉のかさよせ	
▲ 雜報數件		

豫 告

本會雜誌來る十二月の分は全部
 と擧て縣内教育關係者職員録と
 して發行可致に付右様御含置相
 成度候尤も多少餘部可有之に付
 若し特に御希望の方は前金拾貳
 錢相添十二月十日迄に本會へ御
 申込相成候はゞ御送付可致候

愛知教育會

愛知教育雜誌號外
明治四十年十二月二十日發行

愛知縣教育關係者

職員錄

愛知教育會發行